



平塚市 波力発電関連分野での新産業創出促進事業から 脱炭素技術の実装へ

背景

平塚市では、2016年度から東京大学生産技術研究所や多くの企業と共に、**平塚海洋エネルギー研究会を組織**し、波力発電の産業化を目指してきた。2020年2月から2年間、環境省事業である**平塚波力発電所の海域実証の経験**を積み、プレコマースラルに進む。

現状の課題

【環境・脱炭素に関する課題】

- ・年間通じて穏やかな気候で、再生可能エネルギーのポテンシャルは高くない
- ・製造業の集積や人口密集で、電力の脱炭素も簡単ではない
- ・漁業については、漁獲量が変動する

【同時解決したい地域の課題】

- ・漁業の担い手確保
- ・レジャー客等の滞在期間中消費額の拡大
- ・ふるさと納税の拡大
- ・地域のキャッシュレス決済サービス（HSLP）の利用者拡大

事業の目的

- ・漁業の脱炭素化とブランド化
- ・海と漁港周辺の知的対流拠点化
- ・上記を通じた人・モノ・知・金が動く総量の増加

事業内容

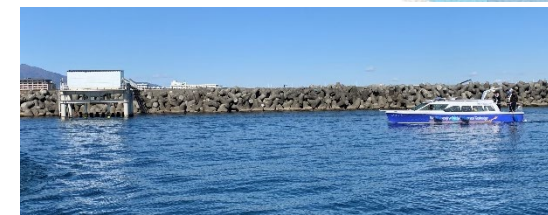
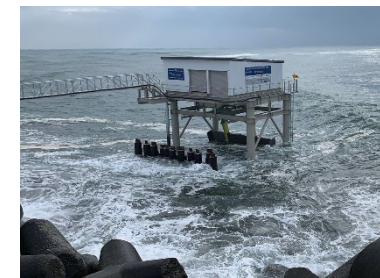
- ・漁港（平塚新港）での波力発電と太陽光発電、蓄電池、EMSを組み合わせた再エネモデルの構築、船の電動化、ブルーカーボンなどを組み合わせたGX
- ・GXと相乗効果を発揮する**地域キャッシュレス決済サービス**
- ・上記をミックスした体験メニュー等の構築、実施

環境省「平成30年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」**平塚波力発電所**

2022年2月に撤去済み



平塚新港 撮影：(株)東京久栄



2021年度実績：電池推進船の漁業利用実験、平塚波力発電所周辺の藻場造成実験など

* **ヤフー株式会社の寄附で事業を実施**



得られる
成果等

成果・目標

波力発電(再生可能エネルギー電源)の社会実装、全国への展開。
波力発電✕電池推進船、波力発電✕太陽光発電✕バッテリー✕EMS、漁港エリアのカーボンニュートラル化等の実現

寄附を
する
メリット
等

企業のメリット

- 世界中で開発競争を行っている波力発電の最新動向がわかる。
- [平塚海洋エネルギー研究会](#)のメンバーとのネットワーキング
- メディアを通じた社会的認知度の向上（NHKや主要メディアに企業版ふるさと納税による事業として取材された実績あり。）

企業との連携イメージ

- 企業版ふるさと納税等での本事業への資金的支援
- 平塚での実施に関する協力
 - 電力（発電・小売）事業
 - バッテリーマネジメントシステム
 - その他、地域課題解決
- 平塚での実施後の、全国展開への協力

これまでの
取組

取組実績

- 平塚海洋エネルギー研究会で波力発電の研究開発（2016年度～）
- 平塚波力発電所の海域実証への協力（2018年度～2021年度）
- [ヤフー株式会社「地域カーボンニュートラル促進プロジェクト」](#)採択（2021年度、2022年度）
- 電池推進船の漁業利用、ブルカーボン実験（2021年度）

連絡先

平塚市産業振興部産業振興課
sangyo-s@city.hiratsuka.kanagawa.jp
https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/sangyo/page-c_01629.html